

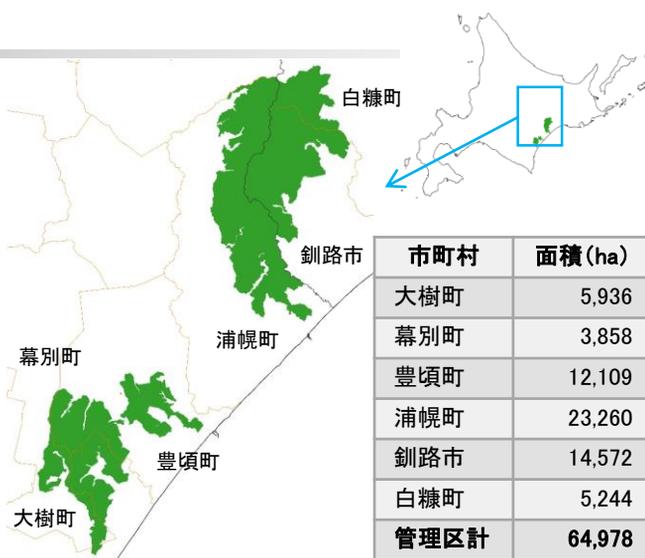


北海道有林野 整備管理計画（十勝管理区）の概要



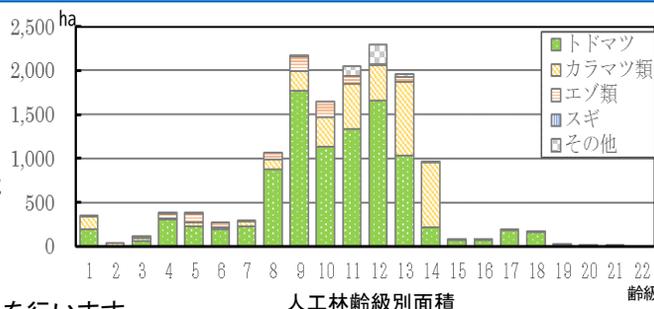
管理区の概要

- 当管理区は、十勝総合振興局南東部「大樹町、幕別町、豊頃町、浦幌町」と釧路総合振興局西部「釧路市音別町、白糠町」の1市5町に所在し、十勝川をはさみ大きく2つの地域に分かれています。
- 森林の大部分が土砂流出防備や水源涵養などの保安林になっており、農耕地の保全を図るとともに、水源地など地域住民の生活用水を供給する役割を担っています。
- 森林面積は約65千haで道有林全体の11%を占めており、うち人工林は約22%を占めています。人工林では、トドマツが67%と多くを占めていますが、十勝地方のシンボルとも言えるカラマツも24%と全道平均より高い比率となっています。天然林は、その大半が針葉樹と広葉樹が入り混じった針広混交林を呈しており、トドマツ等の針葉樹は尾根筋、山麓傾斜地等に分布し、広葉樹はミズナラ、シナノキ、カバ類など、北海道の代表的広葉樹のほか、アサダやカツラなど多種多様な樹種が見られます。



多様で先導的な森林づくりに係る取組

- 人工林については、将来にわたって人工林として維持する森林（単層林施業、複層林施業）と、天然林に誘導する森林（混交林施業、保全林）に区分し、林小班ごとに施業区分を決定した上で、区分毎の施業の基本的考え方や年齢構成の平準化を踏まえつつ、各林分の現状等に応じて、適切な施業を行います。
- 天然林については、今計画では回帰年を設定した計画的な主伐（択伐）は見込まず、天然林内の植え込み木（トドマツ等）の保育伐・間伐を計画します。また、ICTを活用して天然林の質的な回復状況を把握しながら、人工林施業の実施個所の隣接地等において、広葉樹を含めた天然林施業の試行的実施（間伐又は択伐）を行います。



○目標の指標

【育成単層林・育成複層林・天然生林別面積(単位:ha)】

多様な樹種や林齢、構造からなる林分がモザイク状に配置されている森林の育成を目指します。

区分	令和元年度	令和13年度
育成単層林	12,462	11,286
育成複層林	8,999	10,175
天然生林	43,517	43,517

○計画量

【伐採材積】

(単位:千m3)

区分	前期	後期
主伐	178.8	217.6
間伐	289.0	300.0

【更新面積】

(単位:ha)

区分	前期	後期
人工造林	542 (988)	611 (1,008)
天然更新	0 (0)	0 (0)

【路網開設】

(単位:km)

区分	前期	後期
林道	0.0	0.0
林業専用道	14.6	11.1

※括弧内の数値は区域面積

資源や技術力を活用した地域貢献に係る取組

- 傾斜が緩やかな人工林伐採跡地において、植栽後に下刈り用の機械が林内を走行できるよう、林内作業路を設けて大型機械により地拵えを実施する造林・保育作業の実証・普及等を進めます。
- 一般民有林の森林整備が図られるよう、町や森林所有者と協定等を締結し、道有林内の林業専用道等の共同使用や立木販売の共同実施など共同施業・共同出荷に取り組みます。
- 林業機械の導入や雇用の確保に取り組む地域の林業事業者を育成するため、安定的な事業量の確保と計画的な発注に努めるほか、計画的な雇用の確保や設備投資を促進するため、林業事業者と協定を締結し、複数年にわたって連携して造林や保育、伐採などの森林整備に取り組みます。
- 地域の木材需要は増加傾向にあることから、地域の木材需給の動向を踏まえ、人工林の計画的な伐採によりトドマツやカラマツ等の原木を安定的に供給します。
- 国有林と連携し、伝統的工芸品に指定された「二風谷アットウシ」の原材料であるオヒョウの樹皮を、平取町等に供給します。
- 広葉樹試験林等において、樹種特性や選木方法などの研修会を実施し、若手職員の育成を図ります。
- 「オール十勝・森と木のゼロカーボン」の標語を掲げて、木育マイスター等の協力を得ながら、道有林をフィールドとした植樹や育樹等の木育イベントを開催します。



森林散策会（太古の杜）

○目標の指標

【森林づくりに伴い産出される木材の量】

道民生活に木材・木製品の利用が定着し、道有林の森林づくりに伴い産出される木材が有効に活用されることを目指します。

99千m³/年

(平成29～令和2年度までの実績平均)



104千m³

(令和13年度)